

住民ら参加で 関連資料調査

「諏訪史」12月で第1巻刊行100年



諏訪市博物館に来館して資料の調査を行う参加者

諏訪市博物館(同市中洲)は、住民らに参加してもらい、同館が所蔵する諏訪地域の歴史をまとめた「諏訪史」について、改めて関連資料の調査を行っている。諏訪史第1巻が今年12月で刊行100年の節目を迎えるに当たり、住民にも調査に関わってもらい、地元歴史に触れてもらう機会にしようと企画。成果発表の場として、年明けに計画する100周年記念特別展で整理した資料などを展示する考えだ。

(山本雄太)

年明けに記念特別展計画

全国各地郷土史誌
作成の参考にされ

諏訪の考古学史をまとめた諏訪史第1巻は、信濃教育会諏訪部会(現諏訪教育会)が、19元(大正13)の考古学愛好家の協力を得て、諏訪地方で綿密な考古学的調査を行って執筆した。

同館によると、遺跡や遺物に関する考古学的な資料を地域史の1ページとして位置付けた画期的なものであり、後の全国各地の郷土史誌作成の参考にされたという。諏訪史は、

86(昭和61)年刊行の近現代史の第5巻まであり、同館には関連するさまざまな資料が所蔵されている。

話題 キッズ

1夕化もする。考古遺物の図や写真は、同館所蔵の現物と照らし合ったり、第1巻に掲載されているか確かめたりする。

高校生から高齢者
協力員募集に22人

同館が協力員を募集したところ、高校生からお年寄りまで22人が参加。6月23日に説明会を開き、7月からそれぞれ都合のいい日に来館して作業を進めている。3日は2人が乾板写真の確認などを行った。蒲地幸絵さん(同市豊田)は「博物館とかで古いものを見るのが好きなので、宝探してみたいで楽しいし、博物館の裏側も知れて面白い」と笑みを見せた。

同館学芸員の児玉利一さんは「想定以上の人数から応募があり、関心のある人がいてくれたのがうれしい。地域の歴史を知ってもらい、これからの100年に向けて伝えていく人を増やしていきたい」と話している。